

## 【ESD実践】

### 第1回英語パフォーマンス甲子園プレ大会 参加報告書

英語教育専修 学部1回生 櫛乃里花

1. 日時 平成29年8月19日(土) 13:00~17:30
2. 場所 奈良市ならまちセンター 市民ホール(奈良市東林寺町38番地)
3. 参加者 英語教育専修 谷垣徹(4回生)、坂本和音(2回生)、櫛乃里花(1回生)  
次世代教員養成センター 准教授 中澤静男
4. 出場校 奈良女子大学附属中等教育学校 奈良県立畝傍高等学校 関西創価高等学校  
奈良県立法隆寺国際高等学校 関西学院千里国際高等部 奈良県立桜井高等学校  
大阪府立豊中高等学校 東大寺学園高等学校 奈良県立橿原高等学校
5. 活動支援内容

平成29年8月19日(土)、第1回英語パフォーマンス甲子園プレ大会が開催され、本学ユネスコクラブ員3名がスタッフとして運営に携わった。近畿圏内から9校の高校生が集まり、「地域文化と持続可能な社会」というテーマのもと、歌やダンス、プレゼンテーションなどといった多様な手法を用いて英語でのパフォーマンスが繰り広げられた。

さて、この大会への参加を通して感じたことを、以下の3点で振り返る。第1に英語力と表現力の融合について、第2に開催に携わる人々の熱意について、第3にESDとの関わりについてである。

第1の英語力と表現力の融合についてであるが、この大会において高校生が見せた英語力・パフォーマンス力は本当に凄まじいものであった。会場は熱気・感動にあふれ、そのクオリティは審査員をうならせるほどであった。英語力と表現力、これら二つの要素はもちろん個々に素晴らしいものであるが、これらが融合することによって若者特有の爆発的なエネルギーが生み出されることを学んだ。社会の国際化に伴い教育の現場でも英語運用能力・自己表現力が重視される中、これら二つを同時に育成する方法があったことは教員を目指す私たちにとっても大きな発見であった。

第2の開催に携わる人々の熱意についてであるが、審査員の方々をはじめこの大会は多くの人々に支えられていた。そしてその誰もが若者に秘められた可能性を信じ、日本文化発祥の地として奈良から全国へこの活動を広げようという熱意にあふれた方であった。このように若者の育成に対し熱意のある方々に出会えたことは非常に良い刺激であった。

第3のESDとの関わりについてであるが、この大会はESDの理念に基づいて企画されたものであった。「地域文化と持続可能性」というテーマ設定の下、高校生たちはそれぞれの個性を生かして、自分たちの住む奈良という地域への誇りや日本独自の文化を発信していた。ESD実践としての在り方の新鮮さを感じた。

今回はプレ大会ということで近畿圏からの出場者によって行われたが、本大会では全国規模に拡大しての実施が計画されているそうである。機会があれば是非本大会にも関わりたいと思う。



歌やダンスで表現する高校生たち



参加者全員で集合写真